



読売新聞は、教師の要望に応じて学校に記者を派遣する『出前授業』を、「新聞社の社会貢献事業のひとつ」と位置づけ、教育界のニーズにこたえている。北海道支社もここ数年、積極的に記者を教室に送り込んでいる。

# 「出前授業」積極的に 読売新聞 教育メール配信も

ある記者は、新聞社組織の仕組みや新聞制作の過程、インタビューの仕方、原稿の書き方など、事前に教師と打ち合わせて用意した内容から離れて他人には判読できない文字が書きなぐられた実際の取材ノートを披露した。授業後に送られてきた子供たちの手紙には、

「先生が黒板に書いた字をきれいにノートに写し、分かっただつぱりになつていたことをちょっと反省した」、「メモは、自分が忘れないための手段だつたんだと気付いた」と感想が書かれていた。

北海道NIE推進協議会は4月から、大幅に体制基盤を強化した。道内に本、支社、支局などがある日本新聞協会加盟社5社が新規加入したほか、札幌市教育委員会も正式に参加が決まり、NIE運動の一層の進展が期待される。

## 報道5社が新規加入 札幌市教委もNIE協、基盤を強化

3者で組織している。このうち報道関係は朝日、毎日、読売、日経、産経、道新、十勝毎日の7新聞社がこれまで参加していたが、新たに室蘭民報、苫小牧民報、釧路新聞、共同通信、時事通信の5社が加わり、加入社は計12社となった。この結果、道内に本支社支局を置く新聞協会加盟

北海道新聞社のNIE事務局は3月1日付で「NIE推進センターア」として再発足した。社内の読者センターから分離、独立したもので、社員、嘱託、女性スタッフら9人の陣容。記者らが学校で話をする「出前講座」、本社や札幌工場の見学者の対応、NIE実践校の選定・サポート、関連紙面の拡充などに一層、力を入れる。また、同社のNIEホームページも全画面替えた。

少しでも興味や  
関心を想起させるよう  
に努めるのである。  
NIE実践校として  
認定される以前から、  
教科（理科）をはじめ、  
道徳や学級活動などで  
新聞を使わせていただ



札幌市立西岡北中学校教諭

豊島  
義明

震のことが分かるためには、理解しておくことが必要なもの」と思えることで、学習への興味の度合いが変わるのである。かと考へるからである。

日々の実践の中から

変化した。今回は、「大地の學習をしている場面をも想定させながら、授業の中でも取り上げていいった。この試みは單に教科書に記載されたいい語句ということだけではなく、「実際の地震に出会った」という場面をも想定させながら、授業の中でも取り上げていいった。この試みは単に教科書に記載されたいい語句とということだけではなく、「実際の地震に出会った」という場面をも想定させながら、授業の中でも取り上げていいった。

今回の授業で資料として使い、その後パネルに入れ教室内に掲示した北海道新聞(95年1月31日付)の「日本列島巨大地震」に、「NIE活動に役立つ大図解」という記述があつたことから、初めて気付いた自分は、まだまだ新聞の読み方が十分ではないことを自覚した。

がスクランブルづくりを始め、「文化面でタレントを見つけると切り抜いていきやすす」、「野球とサッカーの全試合の結果を、別々のスクランブルブックに張ることになりました」と報告してきた。

ジン「よみうり教育メール」も、道内の教師たちに利用されている。教育の改革に国民的関心が高まっているのに応し、2000年10月からスタートさせた。本版はもとより、全国の総支局が取材し、当日の朝刊に掲載された各地域の教育関連記事をまとめ、土・日曜日を除く毎日配信する。

受信者の4割が教育関係者。主婦の受信も多い。NIE活動も含めた学校教育、進学・進路などにかかわる教師らの悩みに専門家が答える「教育相談」も併せて電子メールで無料送信している。(読売新聞北海道支社編)

NIE推進センター新設

北海道新聞社

一方、札幌市教委員会も同市内でのNIEの一層の普及を期待して正式参加した。

## 北広島市立大曲中学校



# 「地域」の足元見つめる

大曲中（西尾仁宏校長、生徒数670人）の前庭には、学校の歴史よりはるかに古い樹木が生い茂る。その多くはナラの木で、古い呼び名で「ハハソ（柞）」という。今回は「ハハソの林」から、総合学習の時間「H A H A S O T I M E」の様子をお伝えする

(北海道新聞NESTAFF・江本 麻貴)

ペ・ツト、生物保護、観光

多彩なテーマに挑戦

また雪深い2月下旬、1年5組では、計58時間に及ぶ「H A H A S O T I M E」の学年発表会を前に、まとめる時間が始まっていた。

もは友がちの発表を通して見聞や知識を広げることも大事にしたい」と語る。

担任の白瀬友加里教諭は「自分で疑問を持つ、調べる、考えを持つ、伝えなどを狙いとした活動です。自身の発表とと

ア事情について調べた内  
山牧子さん、菊地絵莉香  
さん、村上華澄さんは、  
昨年12月28日の北海道新  
聞朝刊の記事「ベットと  
暮らせば」を参考にした。  
調べていて盲導  
犬協会の運営、パピー  
ウォーカーの活動などにつ  
いて、何と聞か

出てきたのが、北海道盲導犬協会に取材、インターネットも活用して課題調査を進めました。大屋光平君、石岡雅人君、木村竜太朗君、作並大ち

私は今まで、新聞を詳しく読むことはありませんでした。読んでもテレビ欄や地域面、第1面ぐらいで、政治面などには目もくれませんでした。

み方は変わっていきました。授業では新聞を読んでその記事の要約とその意見を作文するということをしました。初めて書いた時はどのように書いていたのか、どこを抜き出して要約するのか、こんなことをやって何の役に立つのか、と思っていました。

ました。ですがそれを2回、3回とやっていくと、自然に要約や意見が簡単に書けるようになります。作文がとても楽しいものになりました。書くことに抵抗がなくなり、慣れてきたからだと思います。

この授業を通して、以前より一つひとつの記事に注目して新聞を読むようになり、興味のなかつた政治面や社会面にも目を通すようになりました。そうしたことでも統一地方選やイラク戦争、偵察衛星が打ち上げられたことなどを詳しく知ることができました。

# 楽しくなつた作文

田中侑美

## なぜ差別問題が・・・



アイヌ民族について発表する大屋光平君

ウの生態と保護をテーマとした。1月7日の北海道新聞朝刊「イトウ死滅の危機」という記事が参

特にイラク戦争で、米英軍の誤爆により死傷者が出了ことや、アラブ諸国で反米感情が加速しつつあることを知りました。

が増え、好きなコラムもでき、社会情勢にも詳しきくなつたと思います。

また、文章の書き方や、構成の仕方を学ぶことができました。今まで嫌いだった作文も「面白い」と思えるようになりました。

これからも新聞を読んで自分の知識を増やし、いろいろなことをたくさん学んでいきたいと思いま

「地域」という足元を見つめ、数々の大きな発見をした生徒たちは、4月から2年生。今後はこれらのテーマをさらに目で確かめ、実体験していく段階に移る。「H A H A S O T I M E」はいつそう幅広く深い視点での取り組みになるだろう。

## ＜原稿を募集＞

北海道新聞社内、北海道大通西3丁目6番地  
FAX 011・211-5802、FAX 011・211-5826。フロッピーディスクで処理してお送りください。

たれています。NIEの目標は、民主主義社会にとって新聞は子供たちに知つてもらつたり、考えてもらつたり

教育関係者14人による第8回NIE海外事情視察団(日本新聞教育文化財団主催)に参加し、デンマークとスウェーデンを訪問した。その中から、デ

3月23日から30日まで、札幌市立月寒中学校教諭二上久代



新聞コンテスト募集ポスターをするキーステンさん(右)、左は通訳のブンゴード・孝子さん

## 「北欧視察」に参加して

札幌市立月寒中学校教諭

二上  
久代

することにある、という。

デンマーク新聞発行者協会のNIEセクションリーダー、キエステンさんによると、力を入れているのは次の3つ。

- ①学校新聞コンテストⅡ日本的小学生徒が参加する。教師の3万人都市を3年間で11人にいたる。それでいて、3年間で3万人都市があなたの中に入れる。そこには、新聞を読むことと新聞を使うことには距離がある。そこで、教師向けに年3回、新聞を発行してメディアに関する専門書の紹介や新聞づくりなどの関連情報を提供する。
- ②新聞が参加し、教育当局と連携してNIEが実施されている。NIEの目標は、民主主義社会にとって新聞は子供たちに知つてもらつたり、考えてもらつたり

研修会Ⅱ新聞社と教育当局が連携し、定期的に実施されれている。

③教師への情報提供Ⅱ「新聞を読むことと新聞を使うことは距離がある」とキエステンさんはいう。そこで、教師向けに年3回、新聞を発行してメディアに関する専門書の紹介や新聞づくりなどの関連情報を提供する。

驚いたのは、この教師向け新聞を学校図書館担当者に送るということだ。その点についてキエステンさんは「情報サービスセンターにあたる学校図書館担当者は、NIEの

成長した国デンマークでは、教育方針が明確だった。NIEを通してその一端を見ることができたのは、最大の収穫だったと思う。

今年3回、新聞を発行してメイドインデンマーク視察では、どの人もプレゼンテーションがたいへん上手な気がした。

その点についてキエステンさんは「情報サービス

センターにあたる学校図書館担当者は、NIEの

# 楽しさあふれる実践

## —学校訪問記—

北海道新聞NIE委員 阪井 宏

北海道新聞のNIEスタッフとなつて、この春で一年になった。訪れた学校は計五十校余り。ある時は、NIE活動を紙面で紹介する取材記者として、またある時は、子供たちに新聞作りの喜びや苦労を話す「出前講座」の講師として、校門をくぐった。印象に残る時は、実践を紹介したい。

## 「自分の意見持つて」

■ショートスピーチ 札幌・山の手南小の朝倉一民教諭が担当する六年生の授業は、NIE活動の原点を見るような実践だった。

まず「ショートスピーチ」。子供たちは自宅から新聞記事を持参し、一人ずつ記事の要旨と簡単な意見を発表する。質問や意見が飛び交い、授業

が盛り上がる。次に「言こと」バトル。時事問題をテーマに、賛否の採決を取り、二手に分かれて話し合う。少数派を同教諭が上手に支えるうちに、議論が深まる。

『ショートスピーチ』

では記事を要約して発表する力がつき、「言バトル」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教

は月に一度集める。宮重教諭は、すべてのノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。教諭が上手に支えるうちに、議論が深まる。

「ショートスピーチ」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教諭が筆頭だろう。教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」ながら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノートに気になる新聞記事を張り、その脇に簡単な感想を書く。切り抜く記事は月二本が目標。ノートは月に一度集める。

宮重教諭は、すべてのノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。教諭が上手に支えるうちに、議論が深まる。

商業高の毛利楨晴教諭の授業が筆頭だろう。生徒たちは月に二、三度、新聞の「身の上相談欄」を読み、自分なりのアドバイスを書く。テーマはさまざま。「自殺を考えている」「家出をしたい」といった同世代の悩みを前に、生徒たちは真剣な回答者となる。回答は「楽しくてやめられない」と言う。

一冊のノートに、タリバンから解放されたアフガニスタンの子供が、青空を背にランコをこぐ

論。

■スクラップ帳

ユニーグルさでは、士別

写真記事があった。コメントは「この青空を見る

と、何だかせつなくなります」。

写真記事があり、全道校長会の願いが、実践に込められていました。

室蘭・東中の宮重徹三

教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」な

がら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノートに気に入る新聞記事を張り、その脇に簡単な感想を書く。切り抜く記事は月二本が目標。ノートは月に一度集める。

宮重教諭は、すべての

ノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。

教諭が上手に支えるうち

に、議論が深まる。

『ショートスピーチ』

では記事を要約して発表する力がつき、「言バトル」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教諭が筆頭だろう。教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」ながら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノート

に気に入る新聞記事を

張り、その脇に簡単な

感想を書く。切り抜く記事

は月二本が目標。ノート

は月に一度集める。

宮重教諭は、すべての

ノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。

教諭が上手に支えるうち

に、議論が深まる。

『ショートスピーチ』

では記事を要約して発表する力がつき、「言バトル」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教諭が筆頭だろう。教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」ながら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノート

に気に入る新聞記事を

張り、その脇に簡単な

感想を書く。切り抜く記事

は月二本が目標。ノート

は月に一度集める。

宮重教諭は、すべての

ノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。

教諭が上手に支えるうち

に、議論が深まる。

『ショートスピーチ』

では記事を要約して発表する力がつき、「言バトル」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教諭が筆頭だろう。教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」ながら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノート

に気に入る新聞記事を

張り、その脇に簡単な

感想を書く。切り抜く記事

は月二本が目標。ノート

は月に一度集める。

宮重教諭は、すべての

ノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。

教諭が上手に支えるうち

に、議論が深まる。

『ショートスピーチ』

では記事を要約して発表する力がつき、「言バトル」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教諭が筆頭だろう。教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」ながら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノート

に気に入る新聞記事を

張り、その脇に簡単な

感想を書く。切り抜く記事

は月二本が目標。ノート

は月に一度集める。

宮重教諭は、すべての

ノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。

教諭が上手に支えるうち

に、議論が深まる。

『ショートスピーチ』

では記事を要約して発表する力がつき、「言バトル」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教諭が筆頭だろう。教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」ながら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノート

に気に入る新聞記事を

張り、その脇に簡単な

感想を書く。切り抜く記事

は月二本が目標。ノート

は月に一度集める。

宮重教諭は、すべての

ノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。

教諭が上手に支えるうち

に、議論が深まる。

『ショートスピーチ』

では記事を要約して発表する力がつき、「言バトル」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教諭が筆頭だろう。教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」ながら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノート

に気に入る新聞記事を

張り、その脇に簡単な

感想を書く。切り抜く記事

は月二本が目標。ノート

は月に一度集める。

宮重教諭は、すべての

ノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。

教諭が上手に支えるうち

に、議論が深まる。

『ショートスピーチ』

では記事を要約して発表する力がつき、「言バトル」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教諭が筆頭だろう。教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」ながら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノート

に気に入る新聞記事を

張り、その脇に簡単な

感想を書く。切り抜く記事

は月二本が目標。ノート

は月に一度集める。

宮重教諭は、すべての

ノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。

教諭が上手に支えるうち

に、議論が深まる。

『ショートスピーチ』

では記事を要約して発表する力がつき、「言バトル」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教諭が筆頭だろう。教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」ながら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノート

に気に入る新聞記事を

張り、その脇に簡単な

感想を書く。切り抜く記事

は月二本が目標。ノート

は月に一度集める。

宮重教諭は、すべての

ノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。

教諭が上手に支えるうち

に、議論が深まる。

『ショートスピーチ』

では記事を要約して発表する力がつき、「言バトル」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教諭が筆頭だろう。教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」ながら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノート

に気に入る新聞記事を

張り、その脇に簡単な

感想を書く。切り抜く記事

は月二本が目標。ノート

は月に一度集める。

宮重教諭は、すべての

ノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。

教諭が上手に支えるうち

に、議論が深まる。

『ショートスピーチ』

では記事を要約して発表する力がつき、「言バトル」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教諭が筆頭だろう。教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」ながら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノート

に気に入る新聞記事を

張り、その脇に簡単な

感想を書く。切り抜く記事

は月二本が目標。ノート

は月に一度集める。

宮重教諭は、すべての

ノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。

教諭が上手に支えるうち

に、議論が深まる。

『ショートスピーチ』

では記事を要約して発表する力がつき、「言バトル」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教諭が筆頭だろう。教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」ながら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノート

に気に入る新聞記事を

張り、その脇に簡単な

感想を書く。切り抜く記事

は月二本が目標。ノート

は月に一度集める。

宮重教諭は、すべての

ノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。

教諭が上手に支えるうち

に、議論が深まる。

『ショートスピーチ』では記事を要約して発表する力がつき、「言バトル」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教諭が筆頭だろう。教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」ながら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノート

に気に入る新聞記事を

張り、その脇に簡単な

感想を書く。切り抜く記事

は月二本が目標。ノート

は月に一度集める。

宮重教諭は、すべての

ノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。

教諭が上手に支えるうち

に、議論が深まる。

『ショートスピーチ』

では記事を要約して発表する力がつき、「言バトル」は意見をもつ楽しさが実感できる」と朝倉教諭が筆頭だろう。教諭の実践も、典型的な「スクラップ帳作り」ながら、印象深かった。

生徒たちは、専用ノート

に気に入る新聞記事を

張り、その脇に簡単な

感想を書く。切り抜く記事

は月二本が目標。ノート

は月に一度集める。

宮重教諭は、すべての

ノート計百四十冊に目を通し、コメントを書く。